

株主の皆様へ

# 株主通信 Vol.12

2013年3月期 第2四半期決算号 2012年4月1日～2012年9月30日  
証券コード：4568



Daiichi-Sankyo



- P02 社長メッセージ  
2012年度目標必達に向け、取組みを加速
- P03 経営説明会レポート
- P08 研究開発レポート
- P10 RANBAXYだより

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。

Top Management Presentation Report / 2012.11.01.Thu

# 経営説明会レポート

2012年11月1日、第一三共本社で行われた経営説明会の模様をダイジェストでお伝えいたします。当日は社長の中山からの決算説明に加え、研究開発本部長のグレン・ゴームリーからは研究開発戦略や主要開発品の進捗について説明が行われました。



## 社長メッセージ

# 2012年度目標 必達に向け、 取組みを加速

2012年11月  
代表取締役社長 兼 CEO

中山 讓治



株主の皆様には日頃より当社の経営にご理解を賜りまして、誠にありがとうございます。

売上高9800億円、営業利益1000億円を目標に掲げてスタートした2012年度、上半期(2012年4月～9月)は、売上高、営業利益ともにほぼ年初計画通りに達成することが出来ました。

下半期の最大の目標は、この年度計画を必達し、2011年度比で増収増益を確保することにあります。そのためには最主力品である高血圧症治療剤オルメサルタンおよび、アルツハイマー型認知症治療剤メマリーやプロトンポンプ阻害剤(PPI)ネキシウムといった国内新製品群の販売目標の達成が重要な要素になります。加えて、営業利益を必達するため、グローバルに各事業ユニットでのさらなるコスト抑制にも努めてまいります。

次に研究開発ですが、抗血小板剤プラスグレルにおけるTRILogy ACS試験、およびMx阻害剤ティバンテニアにおける非小細胞肺癌を対象としたMARQUEE試験では、残念ながら、当初期待通りの

成果を得ることが出来ませんでした。今後は両試験の結果から得た内容を活かしつつ、現在進めている開発プロジェクトを確実に遂行していくことが、最も重要な課題の一つであります。特に経口FXR阻害剤エドキサバンの2つのグローバル試験、プラスグレルの国内での承認取得に向けたPCC(冠動脈形成術)領域、虚血性脳血管障害を合わせた3つの試験、ならびにティバンテニアの肝細胞癌および大腸癌に関する試験を前進させていくことが重要な課題となります。

ランバクシーに関しては、米国食品医薬品局(FDA)から指摘を受けていた問題はすでに一定の区切りを迎えたと認識しております。今後は、同社が持つ資産を最大化させ、第一三共とのシナジーをさらに創出し、グループへの継続的な利益貢献を実現していくことが重要です。最後に、現在の1株当たり年間配当60円は変更することなく維持する所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 第2四半期連結業績の概要

### (1) 売上高

連結売上高は、4842億円(前年同期比6.2%増、対通期予想進捗率49%)となりました。2011年度に国内で発売した新製品や、欧米を中心に販売している抗血小板剤エフィエントの共同販売収入、米国におけるランバクシーグループの売上増などが寄与した結果、薬価改定(160億円)や円高傾向が続く為替の影響(240億円)を吸収し、増収を確保しました。

薬価改定および為替の影響を除いたベースで申しますと、国内医薬品事業の売上高はアルツハイマー型認知症治療剤メマリー、プロトンポンプ阻害剤(PPI)ネキシウムなどの伸長を受けて前年同期比201億円の増収、海外事業は同20億円の増収となっております。

ランバクシーグループの売上高<sup>※</sup>は、米国における高コレステロール血症治療剤アトルバスタチン後発品などの貢献が大きく、同487億円の増収となりました。

※連結決算上は2012年1月～6月の売上を計上。



10月には9月単月の売上水準の2倍強の売上基調になっておりますので、引き続き既存のプロトンポンプ阻害剤からの処方切替を図ります。

抗PANK1抗体ランマーク（一般名：デノスマブ）は本年4月の上市以降、計画通り順調に推移しております。低カルシウム血症の件では各方面にご心配をおかけいたしました。適正使用に関して

対象にした大規模臨床試験のデータも活用して本剤の力をさらに訴求するとともに、単剤による効果不十分例での配合剤レザルタスの処方獲得を加速します。

次に、新製品についてご説明します。メモリーは本年4月の長期処方解禁以来、処方は増加しているものの、進捗率はやや不足しております。下半期は、ドネペジル<sup>※</sup>との併用を含め、専門医の先生方に本剤の特長をご理解いただくことで処方の獲得を進めます。

米国子会社の第一三共US（DS）では、オルメサルタンフランチャイズの最大化が極めて重要です。競合が非常に厳しくなっておりますが、上半期は十分な進捗を果たすことができたと考えております。下半期は最大の競合品バルサルタン<sup>※</sup>のジェネリック品の影響を見極めながら、マーケティング活動のさらなる強化で年度目標の達成を目指します。

エフィエント（一般名：プラスグレル）は、TRILOGY ACS試験では他剤に対する優越性が示せなかったものの、この薬剤の課題であった安全性については貴

### ハイライト 北米・欧州事業

ご理解が進んでおります。なお、本年3月に次の適応症である骨粗鬆症について既に申請しており、大型化を期待しております。

本年9月に上市しました2型糖尿病治療剤テネリアについては、一日一回投与の特性を訴求し、早期の市場浸透を目指します。

<sup>※</sup>アルツハイマー型認知症進行抑制剤。現在、日本市場で多く使われている。

重要な情報を得ましたので、この成果を最大限に活用し、既存領域で競合品との差異化を図ります。

同じく米国子会社のルイトポルド社では、主力品の貧血治療剤ヴェノファアの進捗が若干計画を下回っておりますが、製品出荷のタイミングが下半期にずれ込んだ影響であり、年度計画の達成は十分射程内にあります。

欧州子会社の第一三ヨーロッパ（OSE）のオルメサルタンについては想定範囲内の進捗ですが、下半期には、フランス、イタリア、スペイン等の主要国での薬価切り下げの影響が顕在化してきていることが見込まれますので、楽観を許さない状況にあると認識しております。引き続き配合剤を中心としたフランチャイズ全体の売上計画の必達に向けて取り組んでまいります。

なお、米国・欧州事業における厳しい環境変化を踏まえ、OSは昨年4月、DSMは本年10月に現地トップの交代を行いました。両社とも新たな経営トップのもと、現状の環境変化にフィットした企業経営の確立に取り組んでおります。

<sup>※</sup>オルメサルタンに同じくARB製剤。

### 第2四半期連結業績の概要

単位：億円

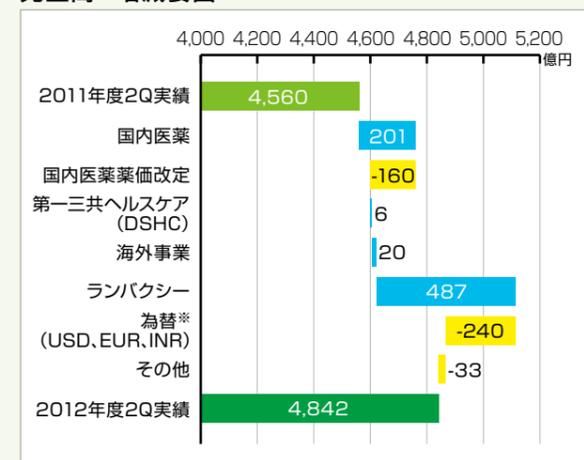
連結損益計算書 推移					ランバクシーグループ <sup>*</sup>			
	2011年度 2Q実績	2012年度 2Q実績	2012年度		2011年度 2Q実績 (1-6月)	2012年度 2Q実績 (1-6月)	2012年度	
			予想	進捗			予想	進捗
売上高	4,560	4,842	9,800	49%	786	1,077	1,790	60%
売上原価	1,289	1,438	3,020	48%	395	409		
販売費及び一般管理費	2,650	2,833	5,780	49%	322	474		
研究開発費	841	872	1,880	46%	47	41		
その他販管費	1,809	1,961	3,900	50%	275	432		
営業利益	622	571	1,000	57%	69	194		
経常利益	663	499	1,000	50%	100	120		
当期純利益	370	244	500	49%	103	81		
為替レート	USD/円	79.81	79.42	80.00				
	EUR/円	113.78	100.64	100.00				

<sup>\*</sup>連結調整前の数値

### (2) 利益

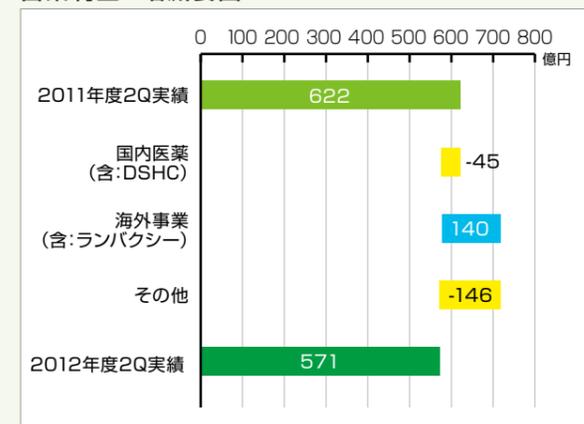
連結営業利益は、販売管理費・研究開発費等の増加に加え、薬価改定の影響や合成抗菌剤レボフロキサシンの輸出減少、前期に計上したプレキシコンゾ<sup>®</sup>でのマイルストーン収入が今期は減少したことなどもあり、571億円（前年同期比8.2%減、対通期予想進捗率57%）となりました。なお、ランバクシーの為替差損やデリバティブ評価損を計上した結果、経常利益は499億円（同24.8%減、50%）、当期純利益は244億円（同34.3%減、49%）となりました。

### 売上高 増減要因



<sup>\*</sup>2011年度2Q実績 USD:79.81円 EUR:113.78円 INR:1.83円  
2012年度2Q実績 USD:79.42円 EUR:100.64円 INR:1.54円

### 営業利益 増減要因



次に、第一三共グループの主要事業セグメント別にポイントをご説明します。

### ハイライト 国内事業

既存主力品については、年度計画の確実な達成が課題です。

重要品目であるオルメテックは、対年度計画進捗率は46%ながら、今上半期にはARB単剤市場で最も高いシェア伸び率を達成しました。下半期は、日本人を



研究開発トピックスにつきましては、次ページからの「研究開発レポート」でもご説明いたします。

領域、脳梗塞領域ともに重要なセグメントとなっており、双方合わせて非常に大きな市場潜在性を有していると考えております。円滑な市場導入により当社の将来の成長において重要な位置づけの製品になり得ると考えております。

いづつのグローバル大規模臨床試験を実施しております。フェーズ2の段階では、慎重に用量設定試験を実施し、複数の至適用量を得た上でフェーズ3に入っており、ベストインクラスの薬剤となり得ることを期待しております。

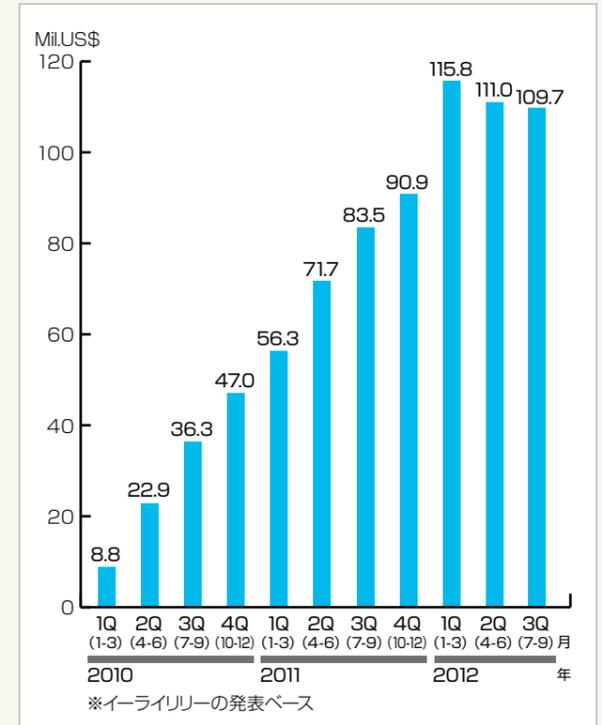
プラスグレルに関しましては、日本では、現在承認取得に向けて、PCI（冠動脈形成術）領域での2つの試験に加え、虚血性脳血管障害でも臨床試験を実施しております。PCI領域では2013年度中の申請を目指します。日本では、心臓

主要製品別 売上推移

単位：億円

	2011年度 2Q実績	2012年度 2Q実績	2012年度	
			計画	推移
グローバル				
オルメサルタン	1,238	1,208	2,370	51%
プラスグレル (共同販促収入)	45	65	(非開示)	-
日本				
ロキソニン	301	297	620	48%
クラビット	168	165	370	45%
ネキシウム	26	44	290	15%
メモリー	39	108	260	41%
メパロチン	174	133	260	51%
アーチスト	124	112	210	54%
オムニパーク	119	102	180	57%
カルブロック	64	55	130	43%
ユリーフ	54	54	110	50%
米国				
ウェルコール	136	155	310	50%
ヴェノファー	129	107	230	46%
為替 レート				
USD/円	79.81	79.42	80.00	
EUR/円	113.78	100.64	100.00	

プラスグレル グローバル売上高



主要開発パイプライン

領域	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	承認申請中
循環代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DS-7309 (糖尿病治療剤/グルコキナーゼ活性化剤)</li> <li>● DS-6930 (糖尿病治療剤/選択的PPARγモジュレーター)</li> <li>● DS-8500 (糖尿病治療剤/GPR119作動薬)</li> <li>● DS-1442 (脂質異常症治療剤/CETP阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CS-747 (米) (プラスグレル/鎌状赤血球/抗血小板剤)</li> <li>● CS-3150 (日) (高血圧症治療剤/MR拮抗薬)</li> <li>● DS-7250 (日) (糖尿病治療剤/DGAT1阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DU-176b (グローバル) (エドキサパン/AF/経口FXa阻害剤)</li> <li>● DU-176b (グローバル) (エドキサパン/VTE/経口FXa阻害剤)</li> <li>● CS-747 (グローバル) (プラスグレル/ACS-MM/抗血小板剤)</li> <li>● CS-747 (日) (プラスグレル/PCI/抗血小板剤)</li> <li>● CS-747 (日) (プラスグレル/脳梗塞/抗血小板剤)</li> </ul>	
癌	<ul style="list-style-type: none"> <li>● U3-1565 (日米) (抗HB-EGF抗体)</li> <li>● DS-2248 (米) (HSP90阻害剤)</li> <li>● DS-7423 (日米) (PI3K/mTOR阻害剤)</li> <li>● ARQ 092 (米) (Akt阻害剤)</li> <li>● DS-3078 (米欧) (mTOR阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ARQ 197 (米欧) (Tivantinib/Met阻害剤)</li> <li>● CS-1008 (グローバル) (Tigatuzumab/抗DR5抗体)</li> <li>● DE-766 (日) (ニモズマブ/抗EGFR抗体)</li> <li>● CS-7017 (米欧) (Efatutazone/PPARγ作動薬)</li> <li>● U3-1287 (米欧) (抗HER3抗体)</li> <li>● PLX4032 (米欧) (Vemurafenib/BRAF阻害剤)</li> <li>● PLX3397 (米) (Fms/Kit/Fit3-ITD阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ARQ 197 (グローバル) (Tivantinib/非小細胞肺癌/Met阻害剤)</li> <li>● AMG 162 (日) (デノスマブ/乳癌補助療法/抗RANKL抗体)</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CS-8958 (ラニナミビル/抗インフルエンザ/ピオタと導出活動中)</li> <li>● DS-8587 (感染症治療剤)</li> <li>● CS-4771 (敗血症治療剤)</li> <li>● PLX5622 (関節リウマチ治療剤)</li> <li>● CS-0777 (免疫抑制剤)</li> <li>● ASB17061 (アトピー性皮膚炎治療剤)</li> <li>● DS-7113 (麻薬性疼痛治療剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AMG 162 (日) (デノスマブ/関節リウマチ/抗RANKL抗体)</li> <li>● DS-5565 (グローバル) (慢性疼痛/α2δリガンド)</li> <li>● SUN13837 (米) (脊髄損傷治療剤/bFGF様細胞分化誘導剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CS-8958 (日) (ラニナミビル/抗インフルエンザ(予防)/ノイラミニダーゼ阻害剤)</li> <li>● DD-723-B (日) (ペルフルプタン/前立腺癌の造影/超音波造影剤)</li> <li>● DR-3355 (日) (レボフロキサシン水和物/感染症/ニューキノロン系抗菌剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DD-723-B (日) (ペルフルプタン/乳腺腫瘍性病変の造影/超音波造影剤)</li> <li>● AMG 162 (日) (デノスマブ/骨粗鬆症/抗RANKL抗体)</li> </ul>

・癌領域においては、最も進んだステージのみ記載しております。

ハイライト ランバクシー

米国市場では大型商品ならびに付加価値の高い製品の発売を推進しております。昨年11月末に発売した高コレステロール血症治療剤アトルバスタチンは、本年5月末の中間期間終了後も引き続き高いシェアを維持しているほか、本年8月には糖尿病治療剤ピオグリタゾンのオーストラリアでの発売も予定しております。

FDAからの指摘を受けていた問題については、昨年末、FDAと締結した同意協定書の内容の着実な遂行に取組んでおります。米国司法省(DOJ)との和解については協議を継続進行させておりますが、必要な和解金は昨年度に引当処理済みです。

また、ランバクシーが有するテリバティブ取引に関しては、今後の為替の動向を見極めつつ、ポジションの圧縮をしていく方針で検討しております。

主要開発パイプラインの状況

図表の赤字で示した部分が、本年7月以降、本日まで動きがあった部分です。次期主力品のうちFXa阻害剤エドキサパンについては、現在心房細動(AF)に伴う血栓症をターゲットとするENGAGE-AFTIMI 48および、深部静脈血栓症・肺塞栓症患者における静脈血栓塞栓症をターゲットとするHOKUSAI VTEV





一体の関係にあるため、有効性と安全性のベストバランスをもった最適な用量の設定が大変重要ですが、当社はフェーズ2試験でその至適用量を確認したと考えております。また、進行中の2つのフェーズ3試験ではいずれも最大規模の症例数を確保しており、日本における約7万人への投薬実績に基づく安全性データを蓄積していることから、競合薬に対して優位性を確保できるものと見ています。

デノスマブについては、本年4月に癌骨転移の適応症で日本で発売しておりますが、第2の適応症である骨粗鬆症についても既に本年3月に申請しております。

このフェーズ3試験結果を10月に米国骨代謝学会(ASBMR)で発表いたしました。さらに、乳癌補助療法、リウマチ、骨巨細胞腫などを対象とした試験を実施中で、製品ポテンシャルの高さに期待しております。

TOPICS

初期開発品について

経営説明会当日は、フェーズ3にある重要な後期開発品を中心にご説明いたしましたが、第一三共は、開発の早期段階であるフェーズ1、そしてフェーズ2にも有望な開発品を多数有しております。説明会当日の質疑応答では、これらの開発品に対する質問もありました。その回答の中でご紹介した化合物は下記の通りです。

Dr.Gormley's Comment

循環代謝

開発番号	一般名	薬効作用機序	目標適応	オリジン	開発段階
DS-8500	-	GPR119作動薬	糖尿病	第一三共	フェーズ1
DS-7250	-	DGAT1阻害剤	糖尿病	第一三共	フェーズ2

戦略についてはまだ公表できませんが、両剤ともにベストインクラスを狙える開発品と考えております。

Dr.Gormley's Comment

U3-1287はU3ファーマが、PLX3397はプレキシコンが創生した化合物で、ともにファーストインクラスを目指して開発を進めております。

癌

開発番号	一般名	薬効作用機序	目標適応	オリジン	開発段階
U3-1287	-	抗HER3抗体 (モノクローナル抗体)	非小細胞肺癌 乳癌	第一三共 (U3ファーマ)	フェーズ2
PLX3397	-	Fms/Kit/Flt3-ITD 阻害剤	ホジキンリンパ腫 急性骨髄性白血病 膠芽細胞腫 前立腺癌	第一三共 (プレキシコン)	フェーズ2

# 重要なプロジェクトを 引き続き推進

エドキサバン（「リクシアナ」）と、デノスマブ（「ランマーク」）の進捗状況についてご説明します。

※「」内は現発売国における製品名。

当社の開発ポートフォリオは今、疾患領域別でも、開発段階（フェーズ1〜3）別でも大変バランスがとれた状態にあります。特に後期開発品については、その開発を着実に進めることで、今後何年にもわたって我々の成長を支えてくれるものと確信しております。

エドキサバンについては、経口FXa阻害剤の分野でベストインクラスの薬剤への期待をかけ、全世界で単独開発を進めています。抗血栓薬は薬効と出血が表裏



専務執行役員 研究開発本部長  
Glenn Gormley, MD PhD

研究開発  
レポート





ランバクシー・ラボラトリーズ Ltd. のご紹介

● 会社概要

商号	Ranbaxy Laboratories Limited (URL: http://www.ranbaxy.com/)		
本社	インド共和国ハリヤナ州、グルガオン		
設立	1961年	決算期	12月末
従業員数	約14,000名(うち研究開発約1,200名)		
主要製品	高コレステロール血症、感染症などの領域におけるジェネリック医薬品		

# RANBAXY だより

No.1

2008年の第一三共グループ入り以降、ランバクシーグループは、ビジネス展開の面でも業績の面でも着実にその存在感を増しています。第一三共グループとの関わりを一層深めつつ共に成長していくランバクシーグループについて、この連載では様々な面からその姿をご紹介します。

## Column

### ランバクシーの米国戦略

ランバクシーの事業戦略には二つの柱があります。

一つは、ランバクシーの本拠地であるインドを含む新興国において、成長投資を強化し、持続的な利益成長を遂げることです。インドにおいてトップ企業の地位を確固たるものとする、特にランバクシーが強みを有する新興国において、企業ブランドを最大限に活かした事業の強化・拡大を図ります。

そしてもう一つは、FTF品(First to File: 米国において180日間の独占販売期間を有する



ジェネリック)等、価値の高い独占権を有する製品の創出により、先進国市場で商業性の高い事業機会を獲得することです。

今、ランバクシーは米国で着実に実績を積み上げています。

2011年末には、世界最大の医薬品と言われたアトルバスタチンのFTF品を発売し、発売4週目には先発薬メーカーに許諾されたオーソライズドジェネリックを、6週目には先発薬を抜いて、市場シェア1位を獲得しました。独占販売期間は第2四半期中に終了しましたが、同期間中にランバクシーはピークで50%以上の市場シェアを獲得し、独占販売終了後においても引き続きリーディング製品としての地位を維持しています。

また、本年8月には、糖尿病治療剤ピオグリタゾンのオーソライズドジェネリックも発売しました。

第3四半期も力強い業績を実現。  
ベースビジネスの売上高が伸長し、  
収益性も改善

2012年第3四半期(7月~9月)の連結売上高は265億1400万ルピー(4800万米ドル)、第3四半期までの累計(1月~9月)は952億900万ルピー(1800万米ドル)となりました。伸び率は、第3四半期が前年同期比31%増、第3四半期までの累計が同53%増といずれも力強い成長を示しております(いずれもルピーベース)。

新興国市場における売上は、第3四半期におけるインド国内の売上がインド製薬市場の成長率を超える伸びを示すなど引き続き伸長し、全体の約49%を占めるに至りました。

米国ビジネスも引き続き好調であり、高コレステロール血症治療剤アトルバスタチンおよびアトルバスタチンとアムロジピンの配合剤は、2012年5月の独占販売期間終了後も引き続きトップシェアを維持しました。

● 決算概要(1月-9月の累計)

単位: 百万ドル

地域	2011	2012	増減	変動要因
インド(ルピー)	322 (14,559)	306 (16,268)	△16 (1,709)	・ 国内製薬市場の成長率を上回る成長を実現(ルピーベースでは増収) ・ OTCは業界全体での感染症薬の落ち込みにも関わらず堅調
北米	385	855	+470	・ アトルバスタチンのFTF品を含むベースビジネスが好調 ・ ピオグリタゾンのオーソライズドジェネリックを上市
その他地域	671	640	△31	・ 西欧では英国、ドイツ、イタリア、東欧ではルーマニア、ロシアが伸長
売上合計	1,374	1,803	+429	
EBITDA	178	341	+163	
税引後利益(PAT)	19	276	+257	・ 売上の好調に加え、製造部門や研究開発における生産性の向上やコスト意識の徹底が貢献

(注) 今般の第一三共の第2四半期連結決算には、ランバクシーの2012年1月-6月までの業績を含んでいます。ランバクシーの2012年7月-9月の業績につきましては、2013年1月31日発表予定の第一三共の第3四半期連結決算に含まれますが、日本基準の決算時には一部調整が入りますことをご了承ください。

# 企業インフォメーション

## 会社概要

(2012年9月30日現在)

商号 第一三共株式会社  
(DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)  
資本金 500億円  
事業内容 医薬品等の研究、開発、製造、販売及び輸出入  
従業員数 32,563名(連結)

## 役員

(2012年6月22日現在)

### 取締役

代表取締役会長 庄田 隆  
代表取締役社長兼CEO 中山 譲治  
取締役 采 孟  
取締役 荻田 健  
取締役 廣川 和憲  
取締役 佐藤 雄紀  
社外取締役 平林 博  
社外取締役 石原 邦夫  
社外取締役 金澤 一郎  
社外取締役 杉山 清次

### 監査役

常勤監査役 小池 和夫  
常勤監査役 千葉 崇  
社外監査役 山田 昭雄  
社外監査役 石川 重明

## 株式情報

(2012年9月30日現在)

発行済株式の総数 709,011,343株  
(自己株式5,076,125株を含む)  
株主数 121,010名

## 株主名簿管理人連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

## 所有者別株式分布状況

	持株数(千株)	持株比率(%)
政府及び地方公共団体	0	0.00
金融機関	311,002	43.86
金融商品取引業者	32,096	4.53
その他の法人	45,995	6.49
外国法人等	177,269	25.00
個人その他	137,570	19.40
自己株式	5,078	0.72

## 株主・投資家の皆さまへ向けた新しいコンテンツを掲載

## WEBサイトのご案内



株主・投資家の皆さま向け経営メッセージを12月に更新します。



<http://www.daiichisankyo.co.jp/ir>

第一三共 IR

検索

### 株主の皆さまの声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、「株主さまアンケート」のリンクよりアンケートサイトに入り、ご回答ください。(所要時間は5分程度です。)

<http://www.daiichisankyo.co.jp/ir/data/business/index.html>

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

# 第一三共株式会社

お問い合わせ先 コーポレートコミュニケーション部

住所 〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

TEL 03-6225-1125

WEB <http://www.daiichisankyo.co.jp/>

FAX 03-6225-1132